

# 特集

## 学校運動部活動と連携し、武道系種目に取り組むクラブ

### 特定非営利活動法人さばえスポーツクラブ ＜福井県鯖江市＞

平成24年度から全国の中学校で武道の授業が必修となりました。武道は我が国固有の文化であり、相手を尊重して練習や試合ができる種目です。中学校での必修化に伴い、総合型クラブにおいても、武道系種目の活動をしているクラブも増えたのではないのでしょうか。

そこで今回は、武道系種目における安全対策についてのヒントとなるよう、学校運動部活動と連携し、多くの武道系種目を取り入れて活動するクラブをご紹介します。

#### 1 クラブ概要

##### 設立の経緯

欧米で普及しているスポーツクラブをモデルとして、子どもからお年寄りまでが枠を超え、様々な種目・競技活動に参加できる総合型地域スポーツクラブをつくるため、行政・学校・地域が連携し、さばえスポーツクラブ(通称:さばスポ)は鯖江中学校を母体として平成12年に福井県内で最初に誕生しました。

さばスポは登録会員の年会費と行政の補助金によって運営しています。鯖江市ではスポーツ少年団や中学校の部活動加入率の低下、学校完全週五日制度導入から、学校施設(体育館、武道館、グラウンド)や公共の体育施設を市民が利用できるように開放学校としており、スポーツクラブの活動の拠点となっています。

##### クラブ理念

『自由に楽しく気軽に参加できて、互いに教え合い、学び合い、いつでもできる交流クラブ』

##### 事業実績、事業展開

スポーツ講座運営事業・クラブイベント事業・委託事業・広報事業・研修事業などを計画・実践しています。

スポーツ講座では、スクール(小学生対象)12教室、サークル(中学生対象/部活動)12部活、サークル(一般対象)14講座、健康教室(幼児・小学生・一般対象)15教室を開講しています。

クラブイベントではスキー教室・会員交流会・ウォーキング大会・つつじマラソンボランティア協力・鯖江中学校文化祭出店・福井国体式典協力・スポーツ婚活・運動会・バーベキュー・スポーツフェスタ・他のスポーツクラブとの交流イベントなどを企画・実施しました。

委託事業では、文科省事業『地域スポーツとトップスポーツの好循環推進プロジェクト』、鯖江市委託事業『体育大好き支援事業』、『リスタートフレッシュアップ事業』、『スポーツ婚活』、『アクティブ・エイジング健康事業』などを受託して実施しました。今年度は『体育大好き支援事業』（鯖江市）、『地域運動部活動推進事業のモデル拠点校』（スポーツ庁）の委託事業を展開中です。

## 2 鯖江中と連携し各種武道を展開

### 中学施設利用面で優遇一市の配慮

設立の経緯として振り返れば22年前、「部活動を地域のスポーツ指導者と共に運営しようではないか」という大きな提案を、当時の部活動担当教員、父母の会保護者、地域の指導者の方々から中学校に投げかけていました。その時は既に地域の指導者が土曜日の部活動に入り、顧問と一緒に生徒たちの指導に当たっていました。鯖江市より総合型地域スポーツクラブの設立・発展を期待され、中学校の体育館・武道館・グラウンド施設を開放学校として利用管理する優遇措置を当クラブがいただくことになったことが当クラブ設立のきっかけです。設立当時は武道系種目として、柔道、剣道、合気道、居合道などが加入し活動していました。

クラブ設立時に中心メンバーとして尽力していたのが、現在の鯖江中学校校長です。以後、当クラブと中学校の連携関係は信頼も強く今日に至っています（もちろん順風満帆に現在があるわけではないが）。

### 柔道少年団→中学柔道部 小中一貫指導の環境が整備

#### ◆柔道スクール

当時、鯖江中学校校区内で活動していた「鯖江柔道スポーツ少年団」は、小学校の体育館を活動拠点としていましたが、練習時の3分の1程の時間を畳の準備と片づけに取られるという問題を抱えていました。そこで中学校の武道館を借りられるメリットから当クラブの会員になり、週2回の夜の練習時間が確保できました。以後当クラブは、中学校との信頼関係において畳の置き場確保や中学生との合同練習などの活動を可能としました。現在は、柔道スポーツ少年団のほとんどの子どもたちが中学進学で柔道部へ入部するようになり、小中一貫指導の環境が整備されています。クラブと中学校、鯖江市柔道連盟との連携も素晴らしく、中学校の部活動指導にも手厚い協力が得られ、柔道経験のない顧問には心強い存在となっています。

当クラブは、柔道スポーツ少年団からの畳張替費用の補助要望に対しても、当クラブ内の備品購入予算より拠出して要望に応じてきました。また、元気に柔道を楽しむ子どもたちを見るのが嬉しく、子どもたちの大会での成果には激励金を支給したりして温かく見守る存在となっています。

#### ・指導者について

現在の指導者は5名。うち1名が女性で、女の子の保護者からは何かと安心感があり喜ばれています。指導者は子どもが好きで練習時もそれぞれの様子に目を配り、高学年の子には、「先輩と呼ばれるにはどういう行動をしたらよいか」を問いかけながら、自覚・成長を見守り促すようにしています。

ほめて伸ばすことを心掛け、チャレンジする子は大いにほめ、また楽しく活動するために準備運動では綱のぼりや鬼ごっこなどを取り入れています。指導者と保護者とのコミュニケーションもとれて、新入部員には上級者の親が丁寧に説明し、指導者と保護者間で柔道以外のことも相談できる関係ができています。

#### ・スポーツクラブとの関係

スポーツクラブに登録加入していることで、柔道競技だけでなくクラブ内にはいろんなスポーツが同時に体験できるメリットがあり、子どもたちの可能性を広げることができます。柔道を習ってみたい人にとっても、当クラブの柔道スクールは地域が限定されていないことや気軽に入りやすいことで、体験希望者も多くなっています。今後も定期的に柔道体験会を開くことにより、社会人になってからでも技を磨きつつ黒帯を目指したい方が増えていき、将来的に子どもたちの指導者として地域に貢献するようになってほしいと思います。



鯖江柔道スポーツ少年団(スポーツクラブ会員)と地域の指導者の集合写真



柔道スクール 地域の指導者の指導風景

## トップアスリートが巡回指導－剣道

### ◆剣道スクール

鯖江中学校剣道部は、剣道経験者の顧問が長い間指導に携わっていました。当クラブは剣道部に対してトップアスリートの巡回指導の管理・運営や開放学校による練習会場の確保などのメリットを提供しています。また、剣道未経験の顧問の時には、保護者の要望を受けて部活動以外の時間も練習ができるように、地域の指導者と練習会場の確保に協力しています。

### ・中学生会員の反応

剣道部の男子キャプテンと女子キャプテンに感想を聞きました。本人たちは、従来の部活動とスポーツクラブでの活動の違いをあまり詳しく理解できていないが、顧問の先生から指導を受ける以外にも様々な方から指導されることは、色々な技がより習得できる上、様々な人に相手になってもらえるため、とても良いと感じているようです。地域の方の指導は大歓迎です。指導するポイントはそれぞれに違っていても、生徒たちが自分なりの気付きを発見できると思います。

2人が掲げた目標は、「全国大会出場」、「団体で1勝でも多く勝ちたい」、「全国大会へ行くだけでなく、大いに活躍したい」。

### ・地域剣道指導者の声

「かつては個人道場で子どもたちに剣道を教えていたが、事情により指導をやめていました。しかし、娘の剣道入部をきっかけに剣道指導を復活しました。娘に勝負で負けるわけにはいかないので、自分の練習にも励んでいます。幸い自営業のため指導時間が週3日取れるので、これまでの自分の集大成を踏まえ理論的に教えたいし、いろんな教えがあつていいと思います。受け止め方は自由で、子どもたちが選べばいいと思います。部活動の地域移行が進むなか、地域スポーツ指導者としての参加にはやりがいを感じています。やれることはどんどんやっていきたいし、今は充実しています。指導者間にはいろいろな意見があるが、自分はどこの学校の生徒でも分け隔てなく教えていきたい。そして地域全体の剣道力向上を目指していきたいです」

### ・クラブ側の声

「地域指導者の頼もしい生の声を聞いて、未来が明るくなったような気がしました。地域にまだまだいっしょやるはずの指導者の掘り起こしに、今後も力を注いでいきたいと感じました」



剣道サークル会員(鯖江中学校剣道部員)と地域の指導者



剣道顧問と地域の指導者の合同指導風景

## 学校外部活動として認定—なぎなた

### ◆なぎなた

なぎなたの活動はもともと剣道指導者として部活動に関わっていた地域の指導者が、平成23年に個人の道場(武陵館・中嶋道場)を拠点に「なぎなた教室」を開設しました。当クラブには会員の確保、練習会場の確保などのメリットがあるため、当クラブに加入し、地域の小中学生から大人まで楽しめるスポーツとしてなぎなたを普及する目的で活動しています。現在も中学校内の部活動ではありませんが、学校外部活動として認められ、大会での優秀な成績を上げたときは他の部活動と同じように中学校で表彰されています。また、福井国体でなぎなた競技が素晴らしい成績を残した背景には、当クラブのなぎなた会員の貢献も見逃せません。



鯖江中学校なぎなた会員の全中大会直後の記念撮影  
(左は大久保校長先生)

## スポーツクラブが合同で市教委に要望 一部活動改革

### ◆部活動連携

当クラブは地域中学校(鯖江中学校)を母体として設立した経緯で、設立当初より土曜日は小・中学校生が地域の指導者と一緒にスポーツを楽しむ活動を実践していました。令和元年には鯖江市内の3つのスポーツクラブが連名で鯖江市教育委員会教育長に対して、「部活動改革に係る取り組み」を3スポーツクラブとしてサポートする体制の整備を進める意向を伝え、鯖江市内の中学校部活動生徒のスポーツクラブへの加入促進を進めるため鯖江市教育委員会および各中学校校長から理解と支援を得られるよう要望書を提出しました。令和3年にスポーツ庁の地域運動部活動推進事業のモデル拠点校に指定されて、鯖江中学校の柔道部、剣道部の部活動がその対象となって推進しています。現在土曜日、日曜日のどちらかの部活動がスポーツクラブの時間として、地域の指導者と学校顧問の連携と協力の下に行われています。

## 徹底した安全対策の下に指導 柔道

### ◆安全対策、安全指導への取り組み

スポーツクラブに登録加入している中学生以下の会員は、全員がスポーツ安全保険に加入することを条件としています。さらに柔道の会員にはワンランク上の(補償額が大きい)保険に入ってもらっています。練習時の安全対策としては、以下の内容を重点的に指導し、順守しています。

- ① 練習時は子ども全体を見るだけでなく、レベル別にグループ分けして5名の指導者がレベルに合わせて手分けして目が行き届くように安全な個別指導をしています。
- ② 子どもたちには、常に周りを確認して「危険がないか」を自分で判断・対応できるように指導しています。
- ③ 子どもたちがどれだけ上達したか親に感じてもらうために親子柔道の機会を設けて、同時にケガ発生時の対処法(AEDはどこにあるのか、救急車への連絡はどのように誰がするのかなど)を日頃より指導および訓練しています。
- ④ 指導者は、子どもの様子を確認して、その状態に合わせた練習メニューや無理をさせないような体調管理、練習時のケガ防止に細心の注意を払うことを心掛けています。

### 3

## 武道系以外のサークルでも連携強化を

今回は武道系種目を重点的にレポートした内容ですが、当クラブには中学校部活動のサークルが12種目(312名)加入しており、柔道・剣道の活動と同様な姿(地域指導者と顧問が連携・協力できる環境)を目指し、その実現に向かって中学校・行政・スポーツ協会(種目協会)との連携・協力を強化します。

### より良い連携のためにも情報交換を活発に

過去に文科省の事業を受託しトップアスリートを中学校剣道部に派遣する際に、中学校顧問と相談し、顧問が尊敬する指導者に来てもらうことができました。その方の剣道の教えや心構えには、顧問をはじめ生徒たちが劇的に変わるという驚きの効果がありました。クラブの人脈だけではその指導者にたどり着くことができなかつたと思います。ここぞという場合にはクラブが関係者と常にコンタクトを取り、情報交換をすることで、より良い連携を創り上げることが重要だと今も強く思います。子どもたちには憧れの存在であるトップアスリートからの指導やメッセージは、夢を追うきっかけとなり、当クラブとしてこのような機会を増やせるように人脈をフルに活用していきたいと思います。

(特定非営利活動法人さばえスポーツクラブ 理事長・森田末廣 理事・石田八州子)

## クラブ プロフィール

**設立年月日** 平成12年9月1日(平成14年5月7日法人登記)

**所在地** 福井県鯖江市

**運営** 会員数1,135名(令和3年11月現在)、予算規模1,335万円(令和3年度)

- 特徴**
- スクール、中学校サークル、一般サークル、健康教室等の多種多様な種目講座があり、いくつでも自由に選び参加できる会員制のクラブ
  - 子供から高齢者まで多世代参加型の総合型クラブ
  - 社会人になってもスポーツを継続できる環境をつくり、地域住民の生涯スポーツの振興に寄与するクラブ
  - 地域の指導者がいつでも気軽に小学生、中学生の指導に参加協力できる環境のクラブ

**連絡先** 福井県鯖江市宮前二丁目9番1号 鯖江市スポーツ交流館内

TEL 0778-51-8618 FAX 0778-51-8618

URL <http://sabae-sc.or.jp/>

E-Mail [sabae-sc@dune.ocn.ne.jp](mailto:sabae-sc@dune.ocn.ne.jp)